

引地川のあゆ、今年も明るく元気にまいります！

12月定例会報告②

件名「都市計画について」 要旨「公共交通について」

一般質問の
録画はこちら⇒



私の公共交通に取り組むきっかけは、高齢の知人から

「自宅前を走るバス路線が廃止されたので、今までみたいに藤沢まで出
かけられなくなる」と、残念な思いを伝えられたことでした。コロナ禍
で移動が制限され交通機関は大打撃を受け、回復しつつあるものの処遇

の悪さによる運転手不足もあり
各地でバス路線の減便・廃止が
相次いでいます。

藤沢でも 11 月に毎日新聞が

【江ノ電バス、来春から減便検討】

利用者少ない路線で、運転手不足 と報道。このままでは市民
の移動を支える公共交通の一角が崩れかねません。

そこで、公共交通の意義について、市の考えを質しました。

市の考え⇒ **公共交通は、市民の自由な移動支えるなど地域の**

**社会経済活動に不可欠な基盤である。また、過度な自家用車利用から公共交通等を適切に利用するよう促
す【モビリティ・マネジメント※】を小学生対象に実施している。**

小学生のうちに公共交通について学ぶのは良いことですが、市民への啓発にもっと取り組む必要があると
思います。今は自由に移動できる人も、いずれ自らハンドルを握れなくなる時がきますし、環境面で見て
も公共交通は自家用車よりも有利です。現在、市は Web サイトのほかパンフレットを発行していますが、
みんなで公共交通を支えていけるようにいっそう力を入れて欲しいと思います。

※モビリティ・マネジメント

クルマはとても便利な交通手段ですが、移動手段を公共交通に変えてみると、運動量が増加したり、環境への負
荷が減少したりします。クルマを使うことが良くないというわけではありません。日常の移動を考えると、公
共交通とクルマ、徒歩などをうまく使い分け、より快適な生活をめざしましょう（藤沢市 Web サイトより）

前述の江ノ電バスについては、いま羽田空港便が運休しています。本来なら利益が出る空港便を走らせたい
ところ運転員が足りず、生活路線を優先した結果です。このように公共交通事業者は民間ながら公益を
果たしていると言えます。大都市には公営の都市交通がありますが、藤沢市に公営バスはありません。
民間企業が公を担っているとも言えますので、**バス事業に対し何らかの支援が必要だ**と考えます。
方法は赤字路線への補填という直接的な支援の他、朝夕のラッシュ時以外の時間帯への利用促進策として
【敬老パス】のよう間接的な支援もあります。（裏面へ）



一日の仕事を終えたバスたち（江ノ電労組提供）

県内他市町村による高齢者を対象とした優待乗車制度	
厚木市、清川村、愛川町	70歳以上を対象に『かなちゃん手形』（後述）の購入補助
箱根町	65歳以上を対象にバス回数券の購入補助
横浜市	70歳以上の希望者を対象に敬老バスの交付（利用者負担あり）
茅ヶ崎市、綾瀬市、海老名市、大和市、座間市など	コミュニティバスの導入
横浜市、相模原市	路線バスに対する赤字補填

（第6回 藤沢市交通政策会議 資料 より抜粋）

バス事業者が販売している高齢者向け優待乗車券				
名称	料金	適用年齢	方式	事業者
かなちゃん手形	3ヶ月 3,500円	69歳以上	ワンコイン (現金100円)	神奈川中央交通
	6ヶ月 5,900円			
	1年 10,800円			
オレンジ ワンコインバス	3ヶ月 3,800円	70歳以上	ワンコイン (現金100円)	江ノ電バス
	6ヶ月 6,300円			

また、少し前ですが**名古屋市**が敬老パスの効果を調査したところ、以下のような結果でした。

名古屋市の調査結果	
社会参加効果	外出回数の増加（外出誘発率）28%増 外出する人の増加→16%増（敬老パスがないと出かけない高齢者 48,000人と推計）
健康効果	利用者が自宅から「最寄り駅の地下鉄、市バス停等」まで歩くことによる歩数の増加（+1,400歩）
経済効果	外出1回あたりの平均消費額 4,200円×1人あたり敬老バス週平均利用回数 1.7回×52週×敬老バス利用者 30万4,000人×外出誘発率 28% = 316億円 （備考：市負担額 140億円）
環境効果	敬老パスがなかったら自家用車・タクシーを利用するという人の推計値 4万人 ×敬老バス平均利用回数×自家用車と公共交通のCO2差×公共交通の平均移動距離 =約 6,500トン CO2削減効果 = 杉の木 46万4,000本分に相当

（名古屋市『敬老パスの制度調査業務委託報告書』平成25年3月 日本能率協会総合研究所 より抜粋）

このように敬老パスには様々な外部効果があり、ピーク時以外の利用を促すことは公共交通網を維持することにもつながります。藤沢市当局も

「市の交通計画の重点施策に【交通サービスの維持・強化】を掲げている。高齢者の外出率が他の年齢層に比べて低いので、「敬老パス」のような取り組みも検討していく」

との意向です。私は「高齢者の移動支援はすぐにも実施して欲しいし、日中の外出支援なら高齢者だけでなくベビーカーの親子にも当てはまる。併せて検討して欲しい」と早急に取り組むよう要望しました。

コラム 市民と市長の意見交換会

12月7日、片瀬地区で【市民と市長との意見交換会】が開催され、今年度は地域活動団体として「まりあ食堂」が選ばれました。

この日はお弁当が48家族190食と過去最高となり、テーブルの上には沢山の「鶏手羽元のさっぱり煮」と「マカロニサラダ」のお弁当が並べられ、市長も驚いていらっしゃいました。

ボランティアとして参加しているおじいちゃんやおばあちゃん、厨房で調理する方、そして子どもたちと遊んでくれる高校生や先生からも活発に感想や意見が出され、高校生から

「まりあ食堂って“おばあちゃんち”って感じです」

と言われて感激。私たちの活動がボランティアの方たちの居場所になっていることも嬉しいですね。



子ども食堂「まりあ食堂」にて鈴木市長と



柳田あゆ 生まれも育ちも鶴沼海岸、「引地川のあゆ」です！

2023年4月藤沢市議会議員選挙初当選。現在、建設経済常任委員会、行政改革等特別委員会、広報広聴委員会の各委員を務める。

～鮎は河川環境の指標生物～

私の「あゆ」という名前の由来は魚の【鮎】です。

「川をきれいにする」という思いがこめられています。



情報発信中！